

ぎのわん地域づくり塾の様子をお伝えします

NEWS LETTER Vol. 8



# ぎのわん地域づくり塾

平成 30 年度  
- 第 3 期 -

主催：宜野湾市 / 宜野湾市社会福祉協議会  
共催：沖縄国際大学 運営：特定非営利活動法人 まちなか研究所わくわく

## 第 7 回 課題解決のための企画発表

日時：10月21日（土）9:00-16:00

講師：高崎経済大学教授 櫻井常矢 氏

まちなか研究所わくわく 宮道喜一 氏

場所：上大謝名公民館

参加者：38名（内塾生29名）



いよいよ最終発表が行われました。塾生が4ヶ月間全8回の講義や自主活動を通して練り上げた上大謝名の地域の皆さまに発表しました。

発表を聞いた上大謝名の地域の方や来場者からのコメントや感想をいただきました。さらに当塾のアドバイザーである櫻井常矢教授による統括コメントを頂きました。

【各チームの提案概要】

### 異世代マッチング

（チーム名：アンダーみさこ）

上大謝名では子育て世代の人口割合が高いが、若い世代の自治会への参加が少なく、将来の担い手不足につながることを課題と捉え、郷土料理（得意料理）教室を開催して、異世代交流の機会をつくることを提案した。上大謝名の各団体長の協力を受け、上大謝名住民で実行することを目指す。

### 地域の宝を喜爆剤に！

（チーム名：A・Fチャンプルー）

県道34号線をはさんで反対側（3丁目）に住む住民が公民館まで距離があり、足を運びづらい事を課題と捉え、「3丁目一の〇〇自慢大会」を開催を提案した。三丁目の各班長が民生委員や自治会の団体などに呼びかけて実施する。3丁目を含め上大謝名住民が輝ける交流の場、人材の発掘を目指す。

### 子どもが消えた！！全員集合！公民館へ！

（チーム名：UP大謝名チーム）

子ども達の足が公民館から遠のいている。また、子ども会と他組織との連携がうまくいっていない、ことを地域の課題と捉え、子ども会を主体としたイベント及び広報委員会を設立して自治会情報の発信を提案。地域づくり推進事業の助成金を活用して実現を目指す。



# ぎのわん地域づくり塾

平成 30 年度  
- 第 3 期 -

## 広報委員会をつくろう！！

(チーム名：Discover)

公民館を利用する人がいつも一緒に、新規加入者が少ないことから、広報のあり方に課題があるのではないかと課題を設定した。広報が好きな様々な年代の方を集めて広報委員会を設立し、継続的に活動していくことを提案した。

## 上大謝名と大謝名合同円卓会議

(チーム名：くがにーす)

子ども達にとって重要なのは、「地域」の垣根を越えた居場所ではないかと考え、同じ学校区で隣接している大謝名地域と合同で、子どもの居場所づくりに関わる合同円卓会議の開催を提案した。子どもの居場所づくりに関わっている関係者間のネットワークを形成し、地域課題の解決を目指す。

### 【参加者の声】

- 年代や仕事の差を越えて様々なアイデアが出てみんなで話し合っって意見をまとめていく作業は楽しかったです。
- 地域の方の小さな声をひろって活かしていく大切さを学びました。
- 地域課題に取り組むにあたり、外部者の心がけを気づかせてくれ、地域の方と共に問題を認識し、ワークをする手法を経験しながら学ぶことで身の丈にあった解決方法を導くことを経験できました。



## 総括コメント～抜粋～

高崎経済大学  
櫻井常矢 教授  
(塾アドバイザー)



### 最終発表後、櫻井先生よりコメントを頂きました。

- 当事者が主体となる(活躍できる)働きかけをしてあげる事が大事。人は人に認められたり、褒められたりすると人は前向きになる。一人ひとりが活躍できる場面を作っていくことが大事で、今回の発表にはこうした視点がたくさんあった。
- 子ども会や老人会などの横のつながりがないというのがあった。各団体は元気なのに横のつながりがないことは、もったいない。これは、宜野湾の共通課題です。
- 発表の中で、上大謝名の外の方が加わってもいいんじゃないかという提案があった。地域の外と連携する。自治の拠点と社会教育の拠点という公民館の2つの役割を両輪として発揮させると地域はうまく回るのではないかと。
- 小さな変化を大切にするコーディネーターになってください。地域づくりは、成果がすぐに出るわけではない。そういうものに価値を見出すことが大事です。
- 物語として語ること。地域は生き物です。うまくいっているところだけを評価しがちですが、地域には波がある。苦労した人たちがいて今がある。盛衰を語るだけで人は元気になる。
- 答えは地域の中にある。地域づくりはまねはできません。地域には必ず何らかの努力がある。徹底した地域への寄り添いが必要なんじゃないかと。
- ぜひコーディネーターとしての力をこれからの地域づくりに発揮していただきたい。